

# 末広まちづくり推進協議会 会議録 令和7年度第3回

| 会議概要          |   |
|---------------|---|
| 日時            | 令和7年12月2日（火曜日）午後6時00分から午後7時30分まで  |
| 場所            | 末広公民館 1階 講座室  |
| 出席者           | 委員（11名、正副会長以外は50音順）<br>村田会長、加藤副会長、泉川委員、坂田委員、清水委員、柴田委員、<br>正部川委員、田畠委員、中森委員、早川委員、柳澤委員<br>(欠席者 館岡委員、中山委員、前川委員)<br>事務局<br>地域活動推進課 高桑主査<br>末広公民館 澤井館長<br>オブザバー<br>地域まるごと支援員 細矢 |
| 会議の公開・<br>非公開 | 公開  |
| 傍聴者の数         | 0名  |
| 会議資料          | 次第<br>資料1 末広地域まちづくり推進協議会委員名簿（令和7年10月24日現在）<br>資料2 末広地域まちづくり推進プログラム<br>資料3 末広地域まちづくり推進プログラム（改訂作業中）   |

## 議事の内容

### 1 開会

## 2 委員の紹介

委員の交代にあたって、新規委員から挨拶を行った。また、継続の委員から自己紹介を行った。

## 3 報告・協議事項

### （1）末広地域の各事業の進捗について（報告）

資料2「平成7年度末広地域事業報告（中間報告）」に基づき、「末広地域交通安全対策事業」「末広地域活動団体PR事業」「末広ふれあいスポーツクラブ子どもの居場所づくり事業」「末広見守りネットワーク担い手連携事業」について、各実行委員会から事業報告を行った。

### （2）旭川市地域推進ビジョンの見直しについて（報告）

今年度見直し作業を進めている旭川市地域自治推進ビジョンについて事務局から説明を行った。このことに対して、委員から以下の意見（感想）があつた。

- ・持続可能を目指した負担軽減の検討という部分についてだが、今地域活動を行えている者たちも、10年先には高齢化で担い手になれないわけだから、中長期的な見通しを持った見直しを期待したい。
- ・行政の計画やビジョンは、往々にして具体性の部分までは踏み込んではいないと思うので、改善策の検討にあたっては、具体的なものであって欲しい。
- ・市民意見の反映を目的にするとしたら、是非とも踏み込んだものにして欲しい。総花的なものだと意見が難しい。
- ・10年間の地域活動についての適切な評価の上に、今次の改訂があるわけだから、過去を踏まえて前進していくものであって欲しい。
- ・行政の様々な計画などがパブリックコメントにかけられるが、市民意見の吸い上げ、反映と言うことが果たして十分なのかと疑問に感じている。
- ・地域自治推進ビジョンは地域まちづくりの根幹にあたると思うので、まち協委員にとっては関心が高いものの1つ、したがって、考える時間が十分に必要なわけだから、見直し作業が始まつた時点はしばらく前だとすれば、なるべく早めに伝えて欲しかった。
- ・市民アンケートの結果からはデジタル化への希望が高かった報告もあったところだが、地域における人と人のつながりづくりには逆行していくと思うので、行政が行つていこうとする方向が逆の場合もある。

- ・町内会20軒くらいのうち、回覧板を希望しているのはとうとう我が家1軒になってしまった。現実として、そういう状態がある。確かに、人のつながりは希薄になってしまふが、難しいものだと思っている。

### (3) 未広地域の課題、取組について

#### (1) 未広まちづくり推進プログラムについて

資料3「未広まちづくり推進プログラム（改訂作業中）」に基づき、地域目標、地域特性、地域の課題の順に、内容精査を行った。主な意見は次のとおり。

- ・地域目標、地域特性の記載変更案については、前回丁寧に審議した部分であったが、案のとおり了解された。
- ・地域の特色ある取組について、盆踊り大会（各町内会等）は実施する町内会がかなり減っていること、代わって、ふれあい祭りの事業は行われていることから、併記することとした。
- ・町内会参加率の母数にあたる地域世帯数について。地域が把握する数字と行政が使用する数字に大きな差があるのではないか、つまり、町内会参加率について、行政の発表と、地域が認識する数字に差があるという指摘があった。
- ・他、名称変更箇所1箇所。

#### (2) 今後の進め方について

今年度の第1回（5月）、第2回（8月）に続き、未広地域の課題、今後の取組に係る進め方について委員意見交換を行った。主な委員意見は以下のとおり。

- ・今年度作成予定の未広地区防災マップについては、地域に広く周知する場を設ける必要があるのでないか、という地域意見があった。その際には、防災課の協力を得たい。
- ・「逃げ遅れゼロ」は現実的にはなかなかハーダルの高い目標なわけだが、防災計画でおおまかな考え方が整理された後、現実的にはどういう動き方になるのか、具体的にイメージしておくことが大事だ。
- ・ニュースで報じられた大火災について、死亡者が少なくて済んだのは、声の掛け合いなど日常的な防災意識の高さがあったという話があった。
- ・地域としての自主性を高めていくためには、不断の啓発、情報提供が必要であって、行政の方にもリーダーシップを期待したい。
- ・昔は「向こう3軒隣り」と言われた。時代が変わってしまって、今は日常的な関わりが少なくなつて、「絆づくり」が1つの課題になつてしまふ。
- ・デジタル化が人のつながり希薄化に拍車を掛ける。時代の傾向としてはデジタルへの要望が強まっているだろうが、「つながりの維持」という視点で見ると逆行している。

- ・表札のない家がある。町内会看板を外した地区もある。個人情報が言われる中、かたや、その情報が無ければ探し難いなど、必要性があつたりする。
- ・地域の情報をどこまで把握し得るのか。「空き家対策」について、倒壊危険性や防災上の観点から、対応を考えないと認識はするのだが、どう進めていけるのか、悩む課題の1つである。
- ・地域の中で「人のつながり」の大切さについての意見が多く出された。地域では、八親、しらさぎなど、地域発意でセンター事業が行われている。こうした地域の力が拡がっていけることを期待したいし、そういう方向に向けていけるように努めていきたい。

#### 4 その他

##### （1）今後の開催日程について

令和7年度第4回協議会は令和8年3月10日（火）18時～、末広公民館で行う。

#### 5 閉会